

◎商店街創生センター×セブン商店会

# 商店街と若手人材の「二人三脚」で活性化に取り組む

商店街創生センターは多様なプログラムを通して、京都府内すべての商店街の活性化支援を手がけており、特に若手人材を中心としたプロジェクト（商店街活性化若手プロジェクト）によって多くの商店街が活況を取り戻している。長岡京市にあるセブン商店会もそのひとつだ。プロジェクトに関わったメンバーたちの話を交えながら、活性化への道のりをレポートする。

2015年10月、セブン商店会では化粧品販売とネイルサロンの店を構える林定信氏は神妙な面持ちで商店街創生センターとの面談に臨んでいた。テーマは「セブン商店会が抱える課題のヒアリング」。林氏はこの日、訪れたセンターの職員に向かって活性化に懸ける「想い」を打ち明けた。

「長岡京市は京都の中心街にほど近く、多くの人は京都市内で買い物を買ませる傾向にあります。商店街も閑散としていることが多く、『このままでは商店会がますます寂れてしまう。力を貸してほしい』と当時の商店会長に請われて会務に参加したのが15年8月のことでした。いざ人会してみると副会長という重職を担うことになっていて、『話が違う』と思ったのが正直なところですよ（笑）。ただ、どうせやるなら商店街を本気で変えたいと考えていたので、商店街創生センターさんとの面談では思いの

丈を率直に話しました」（林会長）  
くしくも同センターが開設したのは林氏が商店会に加入した2カ月後。組織発足のあいさつを兼ねて訪問した職員に対し、林氏はせきを切ったように話し続けたという。面談を担当した神崎浩子氏はこのときの様子をこう明かす。

「林さんの熱意は初対面でもすぐに感じ取れましたし、その気持ちになんとか応えたいと思いました。『まず何から手をつけていいかわからない』と話されていたので、林さんがどんな商店街をつくっていきたいか、そのために何をどう変える必要があるか……と課題を精査することから始めました」（神崎氏）

こうして、セブン商店会の活性化に向けた二人三脚の取り組みが



（上）「セブンのハロウィン」は商店街を代表するイベント  
（下）未来予想図委員会では立場を超えたディスカッションが交わされる

幕を開けた。

**若者の新鮮な発想を生かす**  
商店街創生センターによる支援プログラムの特徴は「外部の視点を積極的に取り入れ課題解決に導く」こと。特に民間の若手人材を中心に結成された「商店街活性化若手プロジェクト」による支援は、新鮮な発想やアイデアが商店街の新たな魅力の発掘、発信につながっていると好評だ。

「林さんからは『商店街を盛り上げるための取り組みをオープンに議論できる場を作りたい』という要望をうかがっていたので、当日の進行やその後の動きについていくつか提案をさせていただきました。こうして生まれたのが『未来予想図委員会』です」（タナカ氏）

「私たちだけでなく林さんを中心に人の巻き込みを行いました。その成果もあり、初回の未来予想図委員会には商店会員だけでなく未加入の商店、近隣住民、市の職員など30人程度のメンバー集めることに成功。委員会には私たちもオブザーバーとして参加し、意見やアイデア、他の商店街の事例紹介などを行いました」（藤田氏）

その後も開催された未来予想図委員会では立場の垣根を超え、自由闊達に議論が交わされた。ここで生まれたイベントは枚挙にいとまがなく、今も継続して催されているものも多い。その一つが「セブンのハロウィン」である。

「商店街が近所の保育園の散歩ル



前列中央が林定信セブン商店会会長、右が前田志津江事務局長、左が神崎浩子氏（商店街創生センター）。後列右より藤田始史氏、タナカユウヤ氏（商店街活性化若手プロジェクト）

ートになっていることもあり、毎年ハロウィーンの時期には個々の商店が仮装した保育園児にお菓子を渡していました。そこで、この取り組みを商店街全体に拡大すれば子どもたちとの触れ合いの場を創出できると思い、全商店を巻き込んだハロウィンイベントを企画したのです」（林会長）

音楽隊のパレードやカポチャの切り抜き教室といった親子で楽しめるイベントも合わせて催すなど、「セブンのハロウィン」は回を重ねるごとに規模が大きくなった。今では多くの保育園児や地域住民でにぎわう一大イベントになったが、

今年は新型コロナの影響もあり規模を縮小して開催する予定だ。「立ち飲みセブン」も好評を博している。「商店街で立ち飲みがしたい」という委員会メンバーの一言をきっかけに、空きスペースを活用した立ち飲みイベントを開催。生鮮食品、飲食店、酒屋の店主たちが食材や料理などを持ち寄り自慢の料理をふるまった。多くの地域住民も立ち寄り、食事やお酒はもちろん店主たちとのコミュニケーションを楽しんだという。林氏も『立ち飲みセブン』は商店会の敷居を下げる大きなきっかけになった」と振り返る。

これらの取り組みが奏功し、商店会の加盟店数が約2倍に増加。人通りも増え、徐々に活況を呈するようになった。しかし、「今はまだ活性化の途中に過ぎません。これからあらゆる意見やアイデアを取り入れセブン商店街を盛り上げていきます」と林氏は気を引き締める。その言葉通り、最近では商店街の店舗を紹介するユーチューブチャンネルを開設するなど、新たな取り組みにも着手している。

**コミュニティの創出にまい進**  
現在、同プロジェクトは商店街の連携促進や活動の共有ができる機会をつくり、商店街同士のつながりやコミュニティ創出に力を注いでいる。その一環として京都府内を中心とした商店街関係者が一堂に会し、全国の商店街の活性化事例を学ぶ「京都商店街創生フォーラム」を、2018年以降毎年開催しており、初回のフォーラムでは活性化の事例発表に林氏が登壇し、取り組みの一部始終を紹介した。

セブン商店会（事務局）

所在地 京都府長岡京市長岡 2-22-27



商店街創生センター

所在地 京都府京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町 78  
京都経済センター3階 304号室

